

2023年度全国生協連グループ社会福祉事業等助成事業
一人暮らし認知症高齢者の生活継続に関わる実態調査
— 介護支援専門員が行う支援についてのインタビュー調査から—

目的

一人暮らし認知症高齢者が望む生活を継続するために、在宅生活を支える介護支援専門員（ケアマネジャー）がどのような支援を行っているかを明らかにし、そのうえで、その際の困難さやその困難をどのように乗り越えているかについて検討することを目的とした。

方法

- ①対象：一人暮らし認知症高齢者の支援を担当した経験を持つ介護支援専門員12名
- ②調査方法：1時間半程度の半構造化面接法による個別インタビュー（オンライン＋対面）
- ③インタビュー内容：一人暮らし認知症高齢者の在宅生活継続のための支援状況について、自身の支援を振り返りながら自由に語ってもらった。
- ④分析：M-GTA（Modified-Grounded Theory Approach：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を採用し、M-GTAの分析手順に則り分析をした。なお、分析テーマは「一人暮らし認知症高齢者の在宅生活継続を支える介護支援専門員の支援プロセス」とし、分析焦点者を「一人暮らし認知症高齢者を支援したことのある介護支援専門員」それぞれ設定した。

結果と主な考察

分析の結果、34の概念と8個のサブカテゴリ、そして、【生活全般をとらえる】【日常に向き合う】【価値の探求】【地域とつなぐ】【チームでのつながり】【関わりのプロセス】という6つのカテゴリが生成された。

<カテゴリを用いたストーリーライン>

一人暮らし認知症高齢者の在宅生活継続を支える介護支援専門員は、一人暮らし認知症高齢者の生活実態把握し、その状況を理解しながら【生活全般を捉える】、そして、別居家族に寄り添いながら、サービス事業所とともに、一人暮らし認知症高齢者の生活上で起きている問題に対応し【日常に向き合う】っている。さらに、本人が地域での生活を継続できるよう、地域で起きていることを把握しながら本人と【地域とつなぐ】働きかけをしていた。そして、これらの支援を進める際は、一人暮らし認知症高齢者の尊厳を損なわないよう本人を知り、本人の思いをとらえようとする【価値の探求】（コアカテゴリ）があった。こういった介護支援専門員の働きかけを支えているのは【チームでのつながり】であり、一人暮らし認知症高齢者の在宅生活を支える介護支援専門員にはある一定の【関わりのプロセス】がある。

○困難さについて

・支援の困難さについては、【生活全般を捉える】、【日常に向き合う】【地域とつなぐ】というカテゴリから、介護支援専門員が一人暮らし認知症高齢者の認知機能の低下による日常での様々な躓きを在宅生活継続の課題としてとらえていることが具体例から示された。

○乗り越え要因について

・認知症の症状により日常の生活がうまく回らないことや地域の人たちとうまくかかわりが持てないことについては、困難さを語りつつも、介護支援専門員がチームして支援していくことで何とかなると感じており、<チームとして互いを理解する>ことで乗り越えられるととらえていた。

○【価値の探求】というコアカテゴリについて

・【価値の探求】の“価値”には、認知症の人にとっての大切さや重要さという“価値”と介護支援専門員の専門職としての“価値”の2つの意味が考えられる。一人暮らし認知症高齢者の一番身近で【日常全般を支える】【日常に向き合う】専門職として支援の前提に、【価値の探求】しながら本人の意思をとらえ人権を擁護していく視点を持つことも困難性を乗り越えるための視点の一つではないかと考える。

成果物

報告書を作成し、認知症介護情報ネットワーク(DCnet)上にダウンロード可能な状態で公開した。

報告書

(A4判、全42ページ)

